

分科会E：「転倒・転落事故防止」

〔テーマ〕 転倒・転落事故防止の連携活動にむけて

医療安全全国共同行動の活動目標に転倒・転落事故防止は、未だ設定されていません。しかし、臨床現場では入院患者の高齢化や認知症患者が増えている中で、どのように対応して転倒・転落事故防止を図っていくのか、深刻な課題となっています。またこの問題は、ケアの提供者が患者個別への対応策をとっていくことと同時に、病院全体としてシステム的に取り組むマネジメント力が求められ、さらに療養環境に関わるメーカーサイドの物的対策も必要となっています。

今回の分科会は、広い視野から転倒の問題に取り組んでおられる日本転倒予防学会の沿革や活動の実際（学会認定の転倒予防士の育成プログラム等）について、学会研修教育担当理事の先生、療養環境に関わる製品づくりをしているメーカーの技術者、臨床現場で職種間連携によって転倒事故防止活動を活発に推進しておられる専従医療安全管理者（看護師）の3名の方々にお話しをさせていただきシンポジウムとしました。参加者は約30名で、看護職の方から「具体的な取り組みをどうすすめていけばいいのか」「現場は悩んでいる」といった切実な質問が寄せられました。

転倒・転落事故防止は、各病院が個別に活動してきたことや、病院背景も様々であることから、交流的な会合はあっても病院間が共同して目標を掲げて行う活動には至っていないのが現状です。また、取り組んでも成果が見えにくいとか、転倒・転落事故防止対策に身体拘束が行われていること、薬物と転倒の関連、転倒・転落のリスクのある患者に対してのアセスメントの問題（アセスメントシート項目、および看護師によるアセスメントと理学療法士によるアセスメントの連携）、アセスメントから有効な対策への連動をどうしていくのか、等々解決していく課題は山積しています。

この分科会を皮切りに、医療安全全国共同行動の活動目標に「転倒・転落事故から患者の安全を守る」を加えていきたいと決意しています。多くの病院からのこの目標への参加をお願いいたします。

（杉山 良子／医療安全全国共同行動 技術支援部会委員、
パラマウントベッド株式会社 技術開発本部 主席研究員）